



FIAT LUX

—光あれ

第20号 2023.4

「本」というもの —その「かたち」—

副学長
図書館長 吉田昌志
YOSHIDA Masashi



みなさんにとって、図書館とはどのようなところだろうか。——たくさんの本が置いてある場所。これが最も普通の答えだろう。

では「本」とは何か。詩人の長田弘（1939-2015）は「本というかたちをもたなければ、本は本ではない」として、次のように云う。

本がくれる記憶のなかには、その本のかたちがそのままはいつている。本文の文字、書体、行間、余白、そして紙。その紙質、そして色。それから本のつくり。見返し。表紙。本を読む楽しみをしばしば左右するのは、表紙の堅さとなるボール紙の微妙な厚さだ。表紙の紙あるいは布の質もそうで、手にしっくりとなじめなければ、読んでいるあいだも、どこかなんだか落ち着かない。（「本のかたちのこと」『自分の時間へ』講談社1996）

と。

私にも「本のかたち」を「記憶」に刻んだ本がある。

三月書房という出版社の文庫判（A6判）、貼函入の随筆集のシリーズ。この手のひらに収まる小型の本で、『春のてまり』の福原麟太郎（英文学者）、『夜ふけのカルタ』の戸板康二（演劇評論家）、『わたしのいるわたし』の池田弥三郎（国文学者）、『わたしのたんす』の花柳章太郎（新派俳優）らの滋味溢れる文章を読む愉しみを知った。

本の造りに感激し、挟み込みの愛読者カードの葉書に書ききれぬ思いを便箋に認めて送った高校生の私に、社長の吉川志都子さんは、欲しい本があれば直接注文するようと、と鄭重な返事を下さった。

本との出会いは、本の書き手のみならず、本の造り手とのめぐり逢いでもあったのだ。

本とは、たんに文字の羅列ではなく、作品を納めた「器」である。しかもそれは飾って眺めるものではなくて、毎日の生活の中で取り出して使うもの、手に馴染んだ日常日用の「器」なのである。詩人もそのような「かたち」をもつ本への愛着を語っていた。

私が図書館を、他のどこよりも大切な、尊い場所だと思うのは、ここが「かたち」をもった本を格納するところだからだ。

今や図書館の電子化が進み、経費の面からも情報の量からも、図書館の主要を占めるようになるのは必至だろう。それに抗うことはむろんできないのだが、しかし、メディア（媒体）として同じ機能を果たすとはいえ、おりおり出遇った本の「かたち」を記憶に刻み込み、それを糧としてきた私には、電子画面の上に明滅する光の集合体、スイッチを切れば消えてしまう文字たちを、「本」と呼ぶことに、どうしてもためらいを覚えるのである。



左：『自分の時間へ』長田弘 著 講談社 1996
右：『夜ふけのカルタ』戸板康二 著 三月書房 1971

CONTENTS

- ①「本」というもの—その「かたち」(副学長/図書館長 吉田昌志)
- ②歴代図書館長による特別寄稿 (第11代図書館長/名誉教授 大申夏身・第12代図書館長/名誉教授 江口雄輔)
- ③特別寄稿 (総長 坂東眞理子・副学長 小川睦美)
- ④教員寄稿 (近代文化研究所客員研究員 堀内正昭・食安全マネジメント学科長 秋山久美子)
- ⑤⑥図書館サポーター
- ⑦図書館からのお知らせ ⑧2023年度図書館年間スケジュール

歴代図書館長による特別寄稿

図書館資料の、より一層の活用のために

第11代図書館長・名誉教授 大串 夏身

(在任期間2008.4.1-2010.3.31)

私が図書館長を務めた時期（2008-10）は、日本でも学習方法の改善への取り組みが進んだ時期で、大学図書館もそれに対応することが求められた。大学図書館は、ラーニングcommonsという図書館の資料・情報を使ったよりアクティブな活動ができる空間を設置することが求められるようになった。本学図書館でも、これ



2008-2015年頃図書館4階にあったラーニングcommons

に対応するために試行的に、ラーニングcommonsとして使える空間を4階の一区画を壁で区切って、そうした空間を作った。加えて、より資料・情報の活用を活発にするために幾つか新しい試みに着手した。その一つに選書ツアーがある。これは、学部学生に呼びかけて参加を募り、都内の大型書店に向いて、自分が必要だろうと思う図書を選ぶというもの。図書館の収集基準にないものも希望として出された。そのひとつに、専門職の資格試験の問題集があった。同じ専門職の国家試験に取り組んでいる他の大学図書館へ行って、本棚を見て回った。それぞれに試験問題集を副本で揃えているので、本学でも揃えることにした。このほか、より多く活用してもらえるように務め、その結果、利用者数、資料の貸出点数なども増加した。これには図書館職員の皆さんの努力が大いに反映していると思う。

思いがけぬ出会い

第12代図書館長・名誉教授 江口 雄輔

(在任期間2010.4.1-2014.3.31)

先日、ちょっとした調べ物があって、図書館を利用させていただいた。地下の書庫に入ると、しんとした空気が濃密で、ゆっくり気持が落ち着いてくる。資料が所蔵されていると事前にわかっていたので、見当をつけて書架へ足を運んだ。幸い、すぐに必要十分な情報を得ることができた。そうして、ほかの書架を見てもなしに見ていたら、偶々ラ・ロッシュフウコオのプレイヤッド版一卷本全集が眼にとまった。



地下2階書庫

はるか以前に彼の伝記を読んだが、エピグラフ風に引用されていた箴言、「太陽と死は直視できない」が、その時、記憶によみがえってきた。年齢を重ねるとともにこの一行の重みが増してくるのだが、さて原書ではどういう文章なのか。気になったので、良い機会とばかり確かめてみた。該当箇所を見つけるのにやや手間取ったが、原文を読んでなるほどと深く納得することができた。図書館の立ち並ぶ書架のあいだを歩き来していると、こんな思いがけない出会いと発見がよくある。

最近は電子書籍の普及が著しいが、図書館で紙の本が本来の役割を果たすのは、むしろこれからかもしれない。ふとそんなことを思った。



本が私を育ててくれた

総長 坂東眞理子

私は「体は食べ物と運動で作られる、心と頭は本で育てられる」と思っています。

物心つく頃から本は常に身近にありました。

しかし私が育った地方の小さな町は、女性が多いの本を読んでいる、いろんなことを知っているというのは「女らしくない」。女の子はかわいく、家事をきちんとし、女らしい趣味を持ち、行儀よく立ち居振る舞いをするのを良しとするような雰囲気でした。その中で本によって別の世界の別の人生をいくつも体験することができました。

その後31歳の時以来、仕事や出産、家事の傍ら本をぽつぽつと書き続けてきました。書けば書くほどもっと的確に表現したいと読書でインプットする意欲が高まり、今に至るまで読んでは書き、書いては読む生活を続けています。

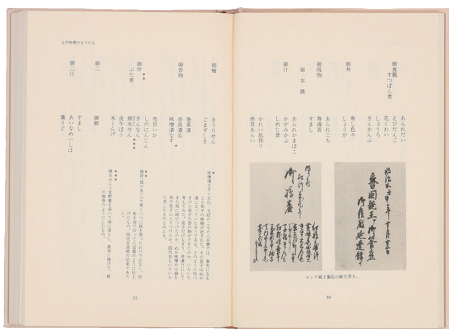
2006年に書いた「女性の品格」という本が320万の皆様に買っていただいた印税の一部を昭和女子大学に寄付して「坂東眞理子基金」としていただきました。その中から毎年「女性文化研究賞」「奨励賞」を差し上げています。本を書くのは労多くして報われることの少ない仕事ですが、本によって人とつながり、社会に影響を与えることが出来ます。ぜひ多くの若い人が本を通じて、作者とつながり、自分の心と頭を養ってほしいと願っています。

資料に「出会う」

副学長 小川 睦美

私が学生だったころ、自然科学系の資料検索といえば、図書館の書庫にこもって1つの学術報文から別の資料を孫引きしながら必要な資料を探しだすのが常であった。資料に辿り着いても、他大所蔵の資料であれば、近場なら出向き、遠方であれば図書館に請求し取り寄せてもらう。多くの時間と労力を必要とした。最近は情報がオンライン化され、キーワードを入れると求める資料にすぐに辿り着くことができる。便利な時代である。一方で、紙のページを繰っていたときにしばしばあった資料との偶然の出会いは少なくなったように思う。

昨年、光葉博物館の催しに関わる機会を得、江戸から続く料亭「八百善」に残る饗応献立の文字起こしをすることになった。図書館で「くずし字辞典」を借りたものの、筆で書かれた文字がちっとも解読できない。息抜きのつもりで八百善を題材にした小説を手にとってみた。第二次世界大戦後の八百善再興の物語である。すると、なんとその本のあとがきにヒントがあり、八百善九代目の奥方が献立を読み解いた資料に辿り着いたのだ！思わぬ出会いに心から感謝した。一口に「資料」といってもいろいろあるものだ。久しぶりに大興奮の体験であった。



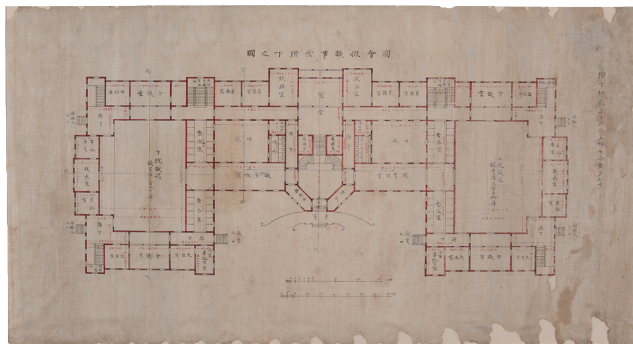
食前方丈：八百善ものがたり 栗山恵津子著
講談社 1986 P.30-31

「国会議事堂コレクション展」に寄せて

近代文化研究所客員研究員 堀内 正昭

筆者は、2021年3月の退職時に、本学図書館に国会議事堂関連資料（図面、錦絵他計49点）を寄贈した。その大半は、明治23（1890）年に開設された最初の帝国議会議事堂に関するものであり、昭和11（1936）年に竣工した現国会議事堂にも繋がる建築史の第一次資料となる。同資料により、拙著『初代国会仮議事堂を復元する』と『国会議事堂の誕生』を上梓した（本学近代文化研究所刊行）。この寄贈を機に、図書館にて「国会議事堂コレクション展—絵画資料を中心に—」が催された（2022年12月1日から翌23年2月1日まで）。

歴史研究とは、第一次資料を拠り所に、新資料あるいは別の視点から見直しと新たな解釈を生む行為であるとするれば、図書館所蔵資料に今回の寄贈資料を加えた本展は、国会議事堂の姿をビジュアルに捉え直す機会となった。また、本展の開催を通じて、図書館側とこれら関連資料の持つ価値を共有できたことが嬉しい。当該資料は、今後、議会開設140周年（2030年）、同150周年（2040年）、国会議事堂建築100周年（2036年）と、その節目ごとに注目されるだろう。本コレクション展の開催に謝意を表するとともに、本学図書館に、様々な所蔵資料の時宜を得た公開ならびに情報の発信を期待する。



國會假議事堂 階下之圖 [アドルフ・シュテークミュラー、吉井茂則設計]
明治20（1887）年10月頃 - 翌21（1888）年6月頃

新聞縮刷版の中の世界

食安全マネジメント学科長 秋山久美子

学生時代、自分の生まれた年のその月に発行された新聞の記事から、食に関する記事を抜きだすという課題が出た。コピーが高かったので、毎日のように図書館に行って新聞縮刷版をめくった。最初は、面倒だと思いながらやっていたのに、そのうちに面白くなってきた。自分が生まれたころの食の状態、物価までも手にとるようにわかる。夏なので、集団食中毒の記事が目についた。私は課題には含まれない広告に興味を持った。とにかく面白い。懸賞で豪華賞品が当たったり、今では許されない誇大広告があったり。



地下1階書庫 新聞縮刷版

それから30年以上が経ったとき「新聞記事から読み解く昭和の食生活」という共同研究の話をいただき、その後の研究分野となった。今は縮刷版ではなくデジタルコンテンツとなっているが、飽きずに見ていることができる。

私は調理実習の中で学生にマヨネーズを作らせるが、失敗する確率が高い。悩んでいたときに、昭和9年のマヨネーズの記事に出会った。泡だて器が各家庭に無い時代に、菜箸でマヨネーズを作っていたということを知り、心穏やかに混ぜるように指導してみると成功率が上がった。昭和時代の主婦の力を実感した。このような出会いがあるから興味がつきない。

図書館サポーター

学生自身が図書館でやってみたいことを提案し、読書推進活動や図書館のサービス・魅力をわかりやすく伝える活動をしている“図書館サポーター”！
みなさんも参加してみませんか？



2022年度はこんな活動をしていました！

※サポータースタッフの学科・学年は2022年度時点です。

おすすめ本のPOP作り

サポータースタッフは本好きが多く、個性あふれるPOPがたくさんできました！
あわせて、スタッフのコメントもご紹介します。



心理学科1年 M.H

私の場合は前期のみの活動でしたが、利用者みなさんにもっと本を好きになってもらえるよう、活動できたことがとても楽しかったです。

【作成したPOP】

- ・ビブリア古書堂の事件手帖：葉子さんと奇妙な客人たち（4階開架室 913.6/Mik）
- ・これだけは理解しておきたいボランティアの基礎（4階開架室 369.7/Kum）



歴史文化学科1年 齊藤汐里

学科必読図書コーナーのPOPを作成しようと思い、普段は読まない倫理学や哲学の本を読みました。馴染みのない分野の本をPOPにしていく作業に苦戦しましたが、内容を深く理解し、まとめていく方法を知ることができた上に、新たな知識を増やすことができました。

次年度もPOP作成を継続し、人の興味を引くPOPの作成をしたいと思います。

【作成したPOP】

- ・方法序説（3階学科必読図書 必読 / 福祉 / 152）
- ・ひとはなぜ服を着るのか（3階学科必読図書 必読 / 環境 / 383）
- ・外国語学習の科学：第二言語習得論とは何か（3階学科必読図書 必読 / 英コミ / 807）
- ・百人一首：桃尻語訳（3階学科必読図書 必読 / 管理 / 911）



ほかのスタッフによる展示コーナーも！



文庫から選んだ
おすすめ本



「本と旅しよう」を
テーマに選んだ
おすすめ本

SDGs企画

図書館でも17の目標を達成するために、問題提起や情報発信をしています。附属の高校生も、企画を立てて参加してくれました！

▶ 環境デザイン学科1年 S.T

「古着で作るブックカバー」企画を立ち上げ、自分の着なくなった洋服で作ったブックカバーを秋桜祭で展示しました。次年度も継続して行いたいと考えています。

さらに発展させていくために、人員を増やしたいと思っています。最終的には作ったブックカバーを販売して、売り上げを寄付したいと考えています。



▶ 附属高校1年 鈴木一花

図書館にある本を使って、自分の好きなように展示をすることができるので、環境問題についてのスライドを作り、関連本を展示する企画を考えました！次年度は、大学図書館の環境美化も行ってみたいと思っています！



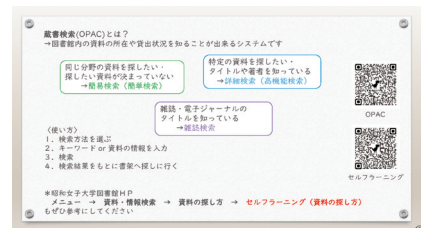
利用者教育

館内の施設・設備の利用方法などをわかりやすくまとめた掲示物の作成も行っています。

「わかりやすい」と感じたら、サポータースタッフ作の掲示かも？

▶ 日本語日本文学科2年 八木あかり

OPAC（蔵書検索）の利用案内を作成しました。シンプルで読みやすいデザインを意識したので、この案内がよりみなさんの図書館利用に役立つものとなれば幸いです。次年度は本の紹介やブログ記事の作成に挑戦したいと考えています。



図書館サポーターは随時募集しています！

4階にあるスタッフ専用の“サポータールーム”で、じっくりと作業をしたり、わきあいあいと話し合いを行うこともできます♪



[よくある質問]

- ・ やってみたい企画が今は思いつかないが申し込んでいいですか？
→ 他のサポータースタッフの企画を共同で行ったり、職員と相談しながら活動していくことができるので、大歓迎です！
- ・ あまり時間がとれない
→ 週1でも、それ以下でも大丈夫です。予定をご相談ください。
- ・ 高校生でも参加できますか？
→ まずは中高部図書室にご相談ください。

申し込みフォームからお申し込みください！
<https://forms.gle/VHZSbVoHYGUvWvPYr5>



ひとやすみミニコーナー

図書館サポーターのつぶやき

- ・ 「古着で作るブックカバー」、参加者募集中です！環境にも良いし、お裁縫はストレス解消にも良いですよ～。
- ・ 本の消毒器を使う時、人がたくさんいると、注目されている…気がする。
- ・ 結構理学系の本も充実してるんだな…。
- ・ 入館ゲートから音鳴るとビビるよね。
- ・ 図書館サポーター同士は仲がいい！

活動時間がバラバラなので普段あまり会う機会がないのですが、定期ミーティングや秋桜祭準備の時に集まるとつい雑談が弾みます。少人数だからこそ初対面でも全員が会話に参加できて終始楽しい雰囲気です◎

図書館特別展 与謝野晶子の世界

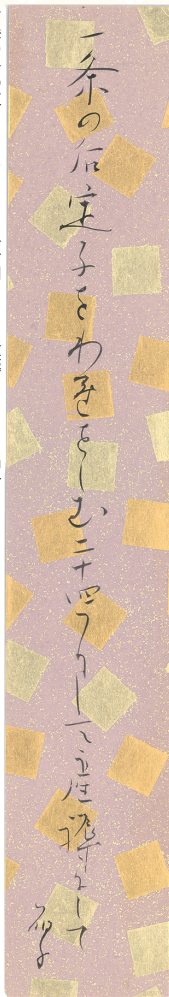


昭和5(1930)～6(1931)年頃
与謝野寛・晶子



晶子愛用の湯呑

一条の後定子をわれをしむ二十四にして産褥にして 晶子



【会期】 2023年5月1日（月）～6月23日（金）

【場所】 光葉博物館・8号館3階図書館コミュニティルーム

日本近代の女性歌人の筆頭与謝野晶子（明治11・1878－昭和17・1942）は、ただに短歌にとどまらず、小説・童話から文芸・女性評論や古典の評釈・現代語訳にいたるまで、多彩な創作活動を展開したばかりでなく、文化学院で教壇に立つ一方、家庭では与謝野鉄幹の妻、11人の子供を産み育てた女性でした。「与謝野文庫」を擁する本学では、設立以来、関係資料の蒐集に努めてきましたが、生誕145年を迎える今年、当館所蔵の貴重資料・図書を中心として、晶子像を多面的に照らし出すべく、特別展を開催します。

〈展示のみどころ〉

光葉博物館では、与謝野晶子と昭和女子大学の関わりにはじまり、自筆の原稿や短冊、歌集などの作品を出陳します。特に全長4mにもなる卷子「源氏物語礼讃」は必見です。また、晶子の弟子であり親しい間柄でもあった近江満子旧蔵の晶子遺愛品で、在りし日の書斎を再現しますので、当時の雰囲気を感じてみてください。

8号館3階図書館コミュニティルームでは、与謝野晶子関連の研究書とこれまでに開催された展覧会図録を選びすぐって紹介します。多くの研究書、評論、歌の注解書が刊行されていますので、光葉博物館の自筆資料や作品とあわせて理解を深めてほしいと願っています。

展示スペース（コミュニティルーム）を貸出します！

8号館3階図書館の展示スペース（コミュニティルーム）を、学生や教職員のみなさんの研究やイベント、その他様々な成果物等の発表の場として貸出をしています。

【展示例】

・2021年度 歴文30周年の軌跡

歴史文化学科設立30周年を記念して学科の歴史を振り返る展示を開催。学科の歴史を振り返る学科年表や卒業生の写真、現職の先生方が歴文にまつわるエピソードを語ったパネルなどが展示されました。

・2022年度 日本語日本文学科コースプロジェクト

『昭和女子大学近代文庫所蔵與謝野晶子未発表書簡』コーパス化プロジェクトをメインに、2016年度からのプロジェクトをパネル化し、『昭和女子大学近代文庫所蔵與謝野晶子未発表書簡』に掲載されている書簡の現物も展示されました。



2023年度貸出期間

- (a) 9月27日（水） ～ 10月18日（水）
- (b) 10月25日（水） ～ 11月15日（水）
- (c) 2024年2月6日（火）～ 2月29日（木）

今後、附属校やBSTのみなさんにも貸出できるように準備中です。

募集期間

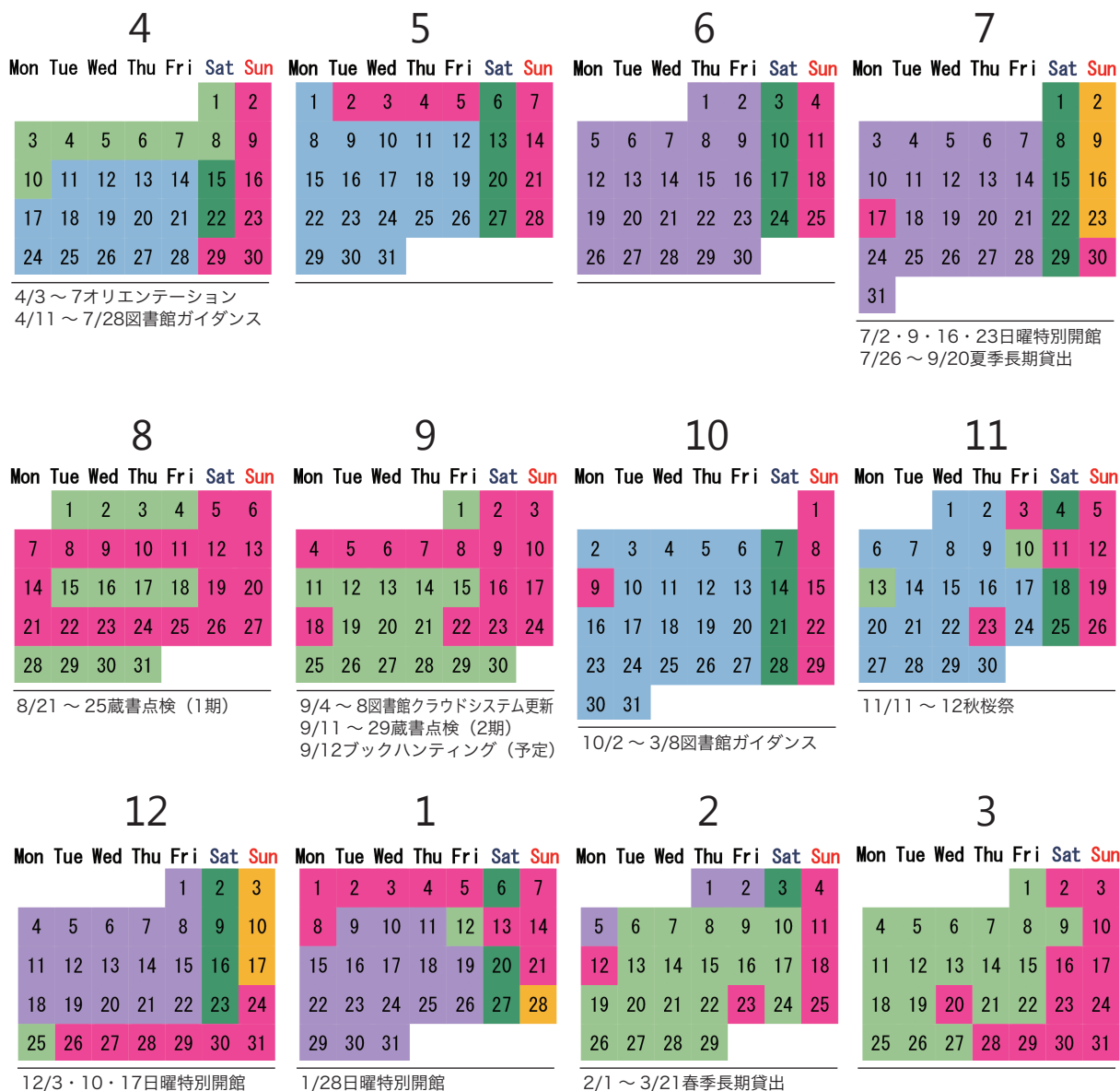
2023年4月3日（月）～6月1日（木）

*利用可否の通知は6月中旬頃を予定しています。
*募集の詳細はUPSHOWA 掲示板をご確認ください。

2023年度 図書館年間スケジュール

最新の情報は図書館ホームページ参照

開館時間 ■8:45～21:30 ■8:45～20:30 ■8:45～18:30 ■8:45～17:00 ■9:00～16:00 ■休館



● 2023年度展示予定 (変更する場合があります)

展示内容	展示期間
図書館コレクション展 —昭和学園教育の礎—	2023/3/8(水)～4/5(水)
図書館特別展 与謝野晶子の世界	2023/5/1(月)～6/23(金)
ホイアン日本橋展(仮) *国際文化研究所主催	2023/7月予定
図書館コレクション展 —尾崎紅葉と泉鏡花展—	2023/11/29(水)～12/20(水) 2024/1/10(水)～2/7(水)
図書館コレクション展 —昭和学園教育の礎—	2024/3/6(水)～5/8(水)